

## イエスは弟子たちからお離れになった ルカによる福音書24:44～53 / 李正雨

私は幼い頃、武術映画が本当に好きでした。華やかな武術アクションに目を奪われました。それで、映画を見たら、私は映画の主人公になったような気になって、キックをしたり、剣を振り回すふりをしたりしました。当時の映画の内容は、似ていたものが多かったのです。主人公は、主に復讐のために隠れた名人を探して訪ね、弟子として受け入れるように願います。弟子になる過程は容易ではありませんが、結局、弟子になり、厳しい訓練と修練を重ね、名人になっていきます。師匠は弟子になった主人公に、物理的な訓練だけでなく、精神的な訓練もさせます。時が来れば、主人公は自分に大きな助けを与えた師匠にひれ伏してお辞儀をし、師匠から離れます。そして主人公は、復讐に成功して、一生を師匠の教えに従って生きていきます。

私が主に見た武術映画は、このような内容でした。幼い頃は、復讐に成功した主人公が好きでしたが、今、考えてみると、師匠が偉かったと思います。今日の福音書もこれと同じストーリーを持っています。復活なさったイエスさまは、何人の弟子たちにご自分を表されて、最後には、十一弟子に現れます。この出会いを最後にして、イエスさまは昇天なさいます。弟子たちから離れるのです。今日の福音書は、イエスさまと弟子たちの最後の出会いを記録しています。

今日の福音書44節をみましょう。「イエスは言われた。『わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。』」イエスさまは、弟子たちの記憶を思い起こさせます。そして旧約聖書のいろいろな言葉が弟子たちの前で実現したということを教えてください。イエスさまは復活なさる前、すなわち、イエスさまの公的な生涯のとき、弟子たちに、ご自分について語っている旧約聖書の言葉が実現されると言っておられました。しかし、当時の弟子たちは、イエスさまが言っておかれた実現が何なのかを理解していなかったようです。だからイエスさまは、「これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである」と言われたのだと思います。イエスさまの「実現」と弟子たちの「実現」は違いました。イエスさまはこの世界の救い、すなわち、ご自分の死を通して神さまの赦しを実現されることを言われましたが、弟子たちはユダヤ人の救いが実現されることを望んでいました。そしてユダヤ人の救いが実現される時、すべての悪はメシアによって裁かれ、自分たちを中心とした新たな世界が開かれるのだと思いました。それで、イエスさまが十字架につけられたとき、弟子たちはすべてが終わったと思い、イエスさまから離れたのです。イエスさまの復活の知らせに積極的に反応していないことも、この実現のために解釈が違ったからだだと思います。

ところが、復活なさったイエスさまは、弟子たちが集まった場所に現われられ、ご自分を亡霊だと思っている弟子たちの前で焼いた魚を食べられました。弟子たちにとってこのような状況は、困ったことだったと思います。イエスさまが生き返られたことは本当に嬉しいことですが、復活を直接経験する弟子たちにとっては、目の前のことが不思議なことだったでしょう。これだけでなく、弟子たちは、イエスさまが言われた「実現」を違って理解していたため、イエスさまの復活をどう受け入れたらいいかが分からなかったのでしょう。イエスさまはこのような弟子たちに、あなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことが実現したとおっしゃり、聖書を悟らせるために、弟子たちの心の目を開いてくださいます(45節)。そしてそう言われます。46～47節の言葉です。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。」

イエスさまは旧約聖書の言葉が実現されたこと、神さまの言葉が実現されたことが何なのかを、弟子たちに言われます。それは、イエスさまの罪の赦しは、すべての国の人々に伝わるという言葉です。弟子たちが望んでいたユダヤ人の救い、悪の審判、自分たちが中心となった世界ではなく、すべての人のための救いがこの世に伝えられるのです。このため、弟子たちはイエスさまに召されたのであり、召された弟子たちは、イエスさまの跡継ぎになるのです。今日の福音書48節でイエスさまは弟子たちに、「あなたがたはこれらのことの証人となる」と言われます。もはや弟子たちは、自分の願いに従ってはいけません。イエスさまを先に立たせて後ろに隠れてはいけません。十字架を見て、逃げてもいけません。罪の許しを全世界に伝える証人として、イエスさまの言葉を教える証人として再び立てられたからです。そして、イエスさまは弟子たちに、エルサレムにとどまっていなさいと言われます。証人となる彼らに神さまの約束されたもの、すなわち聖霊が弟子たちに臨まれるからです。

イエスさまはこの言葉を終えられ、弟子たちを連れてベタニアの辺りまで行かれます。ベタニアはオリブ山があるところですが、イエスさまはこのオリブ山に沿って人々の歓迎を受けて、エルサレムにお入りになりました。つまり、イエスさまの死と復活の出発点がベタニアであったのです。イエスさまはご自分に与えられた課題を終えられ、ご自分の課題が始まった場所に戻って来られました。ご自分によって神さまが栄光を受けられた場所、神さまが賛美を受けられた場所、そこで、イエスさまは手を上げて弟子たちを祝福なさいます。そして祝福しながら弟子たちを離れ、天に上げられます。時が来て、すべてのことは、弟子たちにゆだねられたのです。

私はこの言葉を読みながら、韓国から離れた時が思い浮かびました。一般的に、人は成年になったり結婚をしたりすると、親から離れて、自分の家庭を作ります。ところが、私は結婚も遅かったし、牧師候補生ということによって、大人になっても経済的な自立をすることができませんでした。30代半ばまで親と暮らし、結婚と共に自立をしました。しかし、それも完璧な自立ではありませんでした。親の近くに住んでいたのも、様々なことを頻繁に助けてもらいました。そして2年後、私は韓国を離れて日本に来ることになりました。本当の自立が始まったのです。生活的な自立だけでなく、牧会的な自立も必要でした。韓国にいたときは準牧師だったので、私が責任を負うことが多くなかったのですが、ここでは主任牧師として責任を持って仕事を進めなければなりません。このすべてのことは簡単ではありませんでした。大変な瞬間もあり、失敗もありました。しかし、今考えてみると、このすべての過程は、私にとっては必ず必要な過程でした。一つの教会の牧師になるために、一つの家庭の家長になるために、牧師と家長としてイエスさまの証人となるために、私は、自分を助けてくれる手から離れて自立する必要がありました。

今日の福音書で、イエスさまは弟子たちから離れられ、天に上げられます。この場面が意味するところは、いくつかあると思いますが、私はこの場面のポイントは昇天ではなく、弟子たちから離れられることだと思いました。しかし、この離れることは、弟子たちを捨てることでも、淋しくすることでもありません。時が来たため、イエスさまは弟子たちから離れられたのです。そしてこのことを通して、弟子たちは、証人として自立するのであり、聖霊を受けることになるのです。今、私たちの教会でもこのようなことが繰り返されています。毎週私たちは、礼拝をささげるために集まり、御言葉を聴いて、私たちの生活の場に戻ります。これを皆様は特別なことではないと思われるかもしれませんが、この中には、今日の福音書に書かれているすべてのことが入っています。私たちは、礼拝を通して弟子として召され、聖書を通して悟らされ、私たちの生活の場に証人として派遣されているのです。この過程を通して私たちの信仰は成長し、私たちの隣人にも福音が宣べ伝えられているのです。イエスさまが離れられたことによって、弟子たちが自立したように、私たちも、私たちの生活の場に派遣されることによって、自立させられるのです。イエスさまを信じて従っている私たちを通して、福音と罪の赦しが伝えられますように主の御名によって祈ります。アーメン